

# 地方経済情報 Weekly No.397

## 内定者との距離、縮めていますか？

### 1. 希望と不安が入り混じる内定式

毎年10月になると多くの大手企業は、翌春入社予定者を対象とした内定式を行います。近年、コロナ禍で未開催やオンラインのみでの開催だった企業にとって、今年度は数年ぶりの対面開催となったところも多かったようです。リクルート就職みらい研究所の調査によると、86.7%の企業が対面での内定式を行っています(図表1)。出席者にとっては、喜びや不安、将来への期待や緊張などが入り交じり、今後のキャリア形成に向けて新たな門出となる瞬間です。

### 2. 配属ガチャや入社後ギャップが招く早期離職

内定式が近づく頃、「配属ガチャ」という言葉がSNS上で話題になると言われています。希望する職種や勤務地に配属されるかわからず、運任せであると捉えることを、カプセルトイの「ガチャガチャ」やソーシャルゲームの「ガチャ」になぞらえて言うものです。加えて、企業風土や文化、働き方など自身の思い描いていたものと大きく異なる「入社後ギャップ」により、早期離職となるリスクへの取組みも必要となります。

### 3. 内定者に対する企業の取組の本質

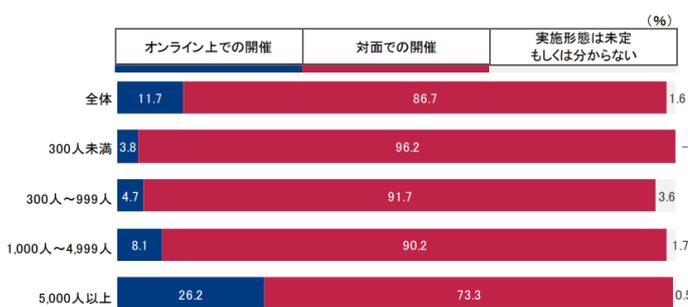
内定式を開催した企業の中には、コロナ禍で希薄となったコミュニケーションの充実や早期離職防止などを目的として様々な取組みを行っています(図表2)。

村田製作所は、コロナ禍での対話不足による離職率増加の経験から、チームワークを培うことを目的に、5~6人ごとのグループで未来の乗り物をブロックで作る研修を実施しました。また、第一生命グループでは、従来は入社後に実施していたキャリア面談を内定式後に行うことで、入社前から一人ひとりに向き合い、「スムーズな現場配属につなげたい」としています。

人手不足による売り手市場が続く中、企業は内定者に対して入社後だけでなく、入社前から継続的なフォローで距離を縮め、早期離職回避や組織への定着に取組むことが重要と言えます。

[図表1]

「従業員規模別就職確定先企業の内定式の実施形態」



民間企業への就職確定者かつ内定式が開催される/されたと回答した大学生

N=954 (就職志望者/単一回答) ※大学院生を除く

資料: リクルート就職みらい研究所「就職プロセス調査(2024)」2023年10月10日版 p.7

[図表2] 内定者への取組事例

企業名	実施内容
村田製作所	1グループ5~6人に分け、未来の乗り物をブロックで作る研修。
第一生命グループ	キャリアデザイン面談を実施。
ヤマハ	ライブに参加する服装での参加を呼びかけ、先輩社員とのグループワークを実施。
浜松ホトニクス	グループワークを開催。
アサヒビール	適正飲酒セミナー開催。年明けに1人ずつキャリア面談実施予定。

資料: 2023年10月2日/3日 日本経済新聞デジタル版をもとに当研究所作成

担当: 主任研究員 山田 博史